

ツキノワグマ警戒指数

利用者の方にツキノワグマの出没状況を毎日、数値化してお知らせします。

- レベル1：後生掛・大沼地区でクマの目撃、痕跡が月に数回確認される。
- レベル2：後生掛・大沼地区でクマの目撃、痕跡が週に数回確認される。
- レベル3：後生掛・大沼地区でクマの目撃、痕跡がほぼ毎日確認される。
- レベル4：キャンプ場内でクマの目撃、痕跡が確認される。
- レベル5：キャンプ場内で、クマが残飯をあさる。テントをひっかく。
- レベル6：クマがキャンプ場に執着し、たびたび現れる。
また、人間に対する警戒心が薄い。

緊急連絡方法

キャンプ場内でツキノワグマを目撃したり、被害にあった場合には、必ず管理人にご連絡ください。連絡方法は、①電話 ②インターホン の2通りです。深夜であっても対応いたします。

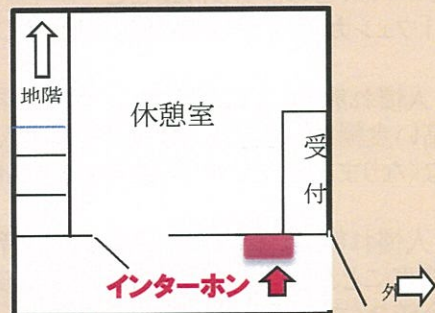


① 電話

後生掛大沼キャンプ場 0186-31-2662
八幡平ビジターセンター 0186-31-2714 (9:00~17:00)
当日管理人携帯電話

② インターホン:

管理棟玄関右側の壁にあり
(右図位置)



後生掛大沼キャンプ場

ツキノワグマ対策



後生掛大沼キャンプ場がある八幡平大沼周辺は、豊かなブナ林・湿原が広がり、ツキノワグマが普通に生活しています。

ここでキャンプをするときは、人間のほうが注意しなければいけないマナーがいくつかあります。このマナーを守れば、ツキノワグマがキャンプサイトに近寄ってくるリスクを大きく軽減することができます。

ツキノワグマと人間の不幸な軋轢を起こすことなく、共存していくために以下のマナーの厳守をお願いいたします。

- ① わずかの時間でも、食料や匂いのするものを放置してサイトを離れない。就寝時にはすべて片付ける。
- ② ゴミはすべて管理棟地階のゴミ箱に捨てる。
- ③ テントの中で調理をしない。また、食料等を保管しない。
- ④ 食料は、匂いを密閉した上で車の中、もしくは管理棟内に保管する。(管理棟内に食料保管用の棚があります)
- ⑤ 夜間歩くときは周囲にクマがいないか注意し、照明を持って行動する。
- ⑥ 管理棟や炊事棟トイレの扉は、開けたら必ず閉める。
これらのマナーを守らないと…(次ページ参照→)

お守りいただけずにクマを誘因してしまった場合は、連泊の予定でもキャンプ場から退去していただきます。

クマによって生じた損害について、当方は一切責任を負いませんのでご了承ください。

やってはいけない！！



食べ物、匂いのするものを野外に置きっぱなしにしてサイトを離れる



テントの中で調理したり、
テントの中に食べ物を保管する

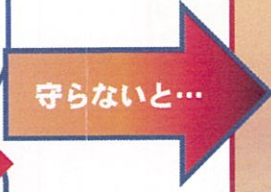


テントの真横で肉や魚など
匂いの強いものを調理する
(サイトやテントに匂いをしみつけてしまう)

(クマの目撃が多くなる8月は特に要注意！)

後生掛大沼キャンプ場では、食べ物の管理について下記のような対策を行いますのでご了承ください。

- ① 夜間巡回し、利用者のサイトを訪問。食べ物の管理についての注意喚起。
- ② 夜間の最終巡回時、サイトに食べ物など匂いを発するものが残されていた場合は、管理棟に一時移動させる。
- ③ 夜間の最終巡回時、野外炊事棟の清掃を行う。利用者の食べ物や洗っていない食器などがあった場合には、管理棟に一時移動させる。



クマがキャンプサイトに現れ、残飯やキャンプ用品を荒らす。
テントをひっかいてしまう。

◎「人慣れ熊」をつくらない！！

ツキノワグマは本来おとなしい動物で、積極的に人間のいるところに近づいてくることはありません。しかし、人間の不注意でキャンプ場のおいしい残飯を食べてしまったクマは、どのような行動をとるか予測が付きません。このようなクマを「人慣れ熊」「ウェンカムイ(アイヌ語で悪い神の意)」と呼んだりします。

「人慣れ熊」はたびたびキャンプ場に現れるようになります。キャンプ場が栄養価の高い食糧を容易に入手できる場所であると学習してしまうと、多少の危険を顧みなくなります。しだいに人間の存在にも慣れて、恐れなくなります。

「人慣れ熊」は多くのキャンプ場利用者にとって驚異であり、キャンプ用品や食料の被害にとどまらず、最悪の場合人身被害に発展します。キャンプ場は一時閉鎖を余儀なくされ、被害を出したツキノワグマは射殺されることもあります。